

活動紹介

普段の防災対策が災害で役立つように～アイデアと工夫をいかして役立つ防災を～

大堀町防災会 会長 北川 久一さん ひさかず

防災訓練を通じて
防災力を高める

大堀町防災会は、災害が発生したときに、地域住民が協力して活動が行えるよう、毎年、防災訓練を実施しています。

防災訓練で心がけていることは、「訓練のための訓練」にならないよう、実際の災害をイメージしながら訓練することです。もうひとつ大切にしていることは、老若男女問わず、多くの人に防災訓練に参加してもらえよう取り組んでいることです。

下の写真は、大堀町防災会が実施した訓練の様子です。地域のみならずさまざまな訓練に取り組んでいます。だれか一人だけに負担がかかる取り組みであれば、継続した防災活動にはつながりません。



▶班を決めて行う避難誘導訓練

訓練では、避難するときの班を決めています。班を決めることで、地域の人々が助け合い、声を掛け合いながら避難することが出来ます。また、地域の状況を把握するために、ホワイトボードと無線機を使用して安全確認ができています。これらの訓練をしています。これも、班ごとに必要な情報を取りまとめようとしています。



◀「一石三鳥」の炊き出し訓練

大堀町防災会では、避難した人に、平等に食糧が渡せるよう、カップラーメンを備蓄しています。お湯は実際に公園で沸かしたものを使用し、避難した人に配りました。備蓄食糧は、定期的な入れ替えが必要ですが、訓練後に、みんなで備蓄食糧を食べて、新しい物との入れ替えをしています。



▶救急講習の受講

また、彦根市消防署から救急講習などの指導を受け、けが人の手当てをする方法を学びました。身近な災害時の行動について学ぶため、火災の「煙体験」もしました。「煙体験」では、煙が充満したテントに入りました。そのほかにも、彦根市から借りた防災啓発用のパネルを展示しました。子どもから大人まで、興味深く学ぶことができました。

活動紹介

地域に根ざした活動を目指して～災害時に助けが必要となる人のために～

平田学区民生委員児童委員協議会 会長 寺尾 佐武良さん さぶらう

高齢者が安心・安全に暮らせるまちづくり

平田学区では、「ふれあいサロン」という活動をしています。「ふれあいサロン」は、「高齢者が身近な場所で気軽に参加できる集会」のことです。

平成18年から民生委員児童委員が主体となって、社会福祉協議会や、町内会（自治会）、ハートフルリーダー（地域の婦人会）、健康推進員などの協力を得て活動をしています。

主な活動内容は、
①高齢者と民生委員児童委員などがいっしょに食事や、懇談をし、地域の人とふれあいながら、顔の見える関係を築く
②元気でいきいきとした生活を送っていただけるよう、健康的な体作りの手伝いや介護認定の話、防犯・防災情報の提供をする

などです。高齢者が和んだ雰囲気の中で、いろいろな話や活動ができるよう、心がけています。

「ふれあいサロン」を通じて

現在、防災活動に参加する人の多くが男性です。しかし、災害時には、女性も協力して、互いに助け合うことが必要になります。

左の写真は、「ふれあいサロン」で役員が協力して食事を作っている様子です。

災害時に、炊き出しが必要となったときに、「私、お手伝いできるよ」という人を増やしていくことも狙いとしてあります。女性が防災活動に参加するきっかけ作りができればと取り組んでいます。



▶防災活動に参加するきっかけ作りに

◀和んだ雰囲気の中で情報交換



地域の人たちと役員が作ったご飯を食べていると、和んだ雰囲気の中で、情報交換を行うことができます。

情報不足になりがちな高齢者に、地域の情報や、生活に役立つ情報を提供できるようにしました。ちょっとした情報も防災には役立つと考えています。

今後も地域のつながりを防災対策にもいかせるよう活動を続けていきたいと思っています。



▶防災出前講座の受講

食事のあとには、彦根市の防災出前講座を利用し、「彦根市災害時要援護者支援制度」の説明を受けました。避難時の心得や、どのような支援が必要になるのか、高齢者自身も知っていただく必要があるからです。防災について、身近な人たちとともに考えました。

平田学区の高齢者の割合は、21%です。地域の支援体制作りが重要な課題となっています。これからも、地域での支援体制について、いっしょに考えていきたいと思っています。